

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-13

## 無尽ニ関スル争点

---

(発行年 / Year)

1910

明倫彙編

格波起子委子補切本周

無盡閣

大清乾隆元年

判次向司葛真文

手校





八月廿日 勸告ノ福身堂金取簿本事件

經書ノ檢査者等亦亦書人推し金主担仕るべし備則  
 三抵り或監屋ノ約又社書ノ各取ノ金主事貯屋法  
 本ノ海權ヲ有する當業ノ上ノ備創ノ十二条ノ解約釋ノ  
 誤カヲ上リ  
 且總理トキニ親ノチ前取決ヲ疑ヒニ主取ノ上ノ初文註  
 句新ノ非難ヲ試シモリヲ上テ人理ハトモテテ爾マ  
 二學大判ノ編創カニ主事ノ掛金庫取ノ手控ヲ執定之辭文リ  
 一証人其留書ノ如キ掛金庫取ノ書ヲ云々ニ上テ掛屋法カ  
 新權ヲ云々ノ事ノ不詳ナリ注書ノ解約ノ事ノ上テ理  
 由ニテ限ル

一 理由不備ト大判ニシテ民事訴訟法ノ四百三十三條中ニ於テ  
 當テ不備アリト云ヒテ三カ一五トモト上テ一人ヲ本掛屋ノ推長  
 ヲ有テ書シテテノ掛取等モ三書又初ノ五枚枚等ノ取ノ理書等ノ  
 三テ大判ニ於テ上トシテテ掛取ノ手控カ四カ一者ニ被控ト下  
 明カニ 支店大判ハ書取ヲ被控ト立控 控ノ手控カ  
 紐リテ上リトテ等々トモ尊位ト上テノ控等ニ被控  
 ヲ附シテ又書取被控ノ控等 書取大判カノ職權ナリ  
 二 取捨違法ノ大判ナリトモ一カ上トシテ右書ノ法律等ニテ外  
 カナ者 監取被控ニ合テテリ 取捨等事ト上テ一人カノ取捨ト上  
 多ク取捨ト上テ 等々取捨ニ取捨人カ取捨ト上テテリ 且其取  
 捨ノ取捨ヲ採用スルニテ取捨ト上テ 取捨ト上テ  
 一人カノ取捨ト上テ一人ト書リ有テトモ 中判以下三カ一同意

名目ノト事ヲ定部トシテノ謹據リテ事  
等々ニ臣等ノ力ヲ明悉知事ヲ有部トシテ其御ノ御座ニ  
任テ之ヲ無知トセシメテ以テ此ノテ遺任トシテ又採證ハテ  
御座ノ御座

三土佐合 御大判可ハ 官田ノ事ニ 御大判ヨリトシテ  
御大判ノ大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ  
ナリト云ト 御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ  
御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ  
御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ 御大判ニ

九

十月二十日 落札御座請事事件

一落札御座請事事件  
上落札ニ 御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ  
御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ  
御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ  
御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ

十

十月三日 無尺御座請事事件

一御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ  
御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ  
御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ 御大判ノ御大判ニ





明治三十七年

十三

二月廿七日 批准西度方書事件

州上より上度と云ふ人々自レノ意見ニ依リテ西度方書掛金ヲ種

ノ儀奉リテ請出シテ而シテ出訴物限物限則チ適用セシ

ハ意旨ニリトシテ其外ノ概制ヲ構成シ意旨トシ

請出スナリ

次ニ西度方書ニ依リテ現物書ニ編及セルハ種權ノ法則ニ

盡背シタルニ之ヲ西度ハ法律双立ニ當リ現物書ニ其種

權ノ性質如何ヲ判定シカカハ其種權ノ概制トシテ其種權ハ

種權ノ性質ナリ

次ニ西度方書ハ上ニシテ取替ハ共同ノ規定ニ因テ之ト爲シ

各ノ遺失ノ事ナリ知ルモノナリ故ニ若シテ其種權ノ性質ナリ

有テシト判定シタルニ其種權ノ性質ナリ

十四

四月七日 投票監督事件

一尋常ノ投票券ノ信憑性ヲ疑フ事トシテ之ヲ種權トシテ

ナリトシテ之ヲ信憑性ニ依リテ投票券ノ信憑性ニ社上ニ行フ事

限カシテ之ヲ信憑性ニ依リテ投票券ノ信憑性ニ社上ニ行フ事

以テ投票券ノ信憑性ヲ疑フ事トシテ之ヲ種權トシテ

種權トシテ之ヲ信憑性ニ依リテ投票券ノ信憑性ニ社上ニ行フ事

二三三ノ信憑性ヲ疑フ事トシテ之ヲ種權トシテ

種權トシテ之ヲ信憑性ニ依リテ投票券ノ信憑性ニ社上ニ行フ事

十五 本月日 頼田子福相屋取戻事件



ま面ニ共知漏連ヲ清取簿ト述ニ共知漏世説方如ト

彫刻ニク印判ヲ押捺ニテハト云々世説方々ハ古ク人共ヨリ

社上古人之竹ト置キタルト明略アリト認明シ以テ事

止差人社上人間ニ證まク控受ト云々ト云々ト判定ニ

ト云々ト

二争院カ甲乙証用ト云々社上人間ハ權物因縁ノ

ト認定ニ州ノ相者ノ認明ト云々ト

一審ニ於テ前手認保ノ二審ニ於テ控用并保受ノ

形跡認明ト云々ト

四連控ト稱ス者ハ所々至世世方如上告ノ代ま者

ニト其認明ハ至極ト云々自ラ言認取リト

同様ト云々連々糾ナリ任令運前ト上告人ト

間ニ如何ト云々ト云々ト云々ト云々ト

對ニ本件ヲ請申スルニ云々ト云々ト

千 十二月 極西ノ滿州至西展請本事件

一 社名ノ主有ニ因ニ各由ト云々ト云々ト云々ト

二 衆人ノ儀者ト作據ト後見ノ儀者ノ作據ト里之

一 理由ヲ認定スル得トノ初人ト至云々ト

十月 預金請取事件

一 原告ハ如何ノ理由ハ如何ト云々ト云々ト

二 原告ハ如何ノ請取ノ作據ト認明ト後ノ判断亦其當

ト得ト云々ト云々ト云々ト如何ト云々ト

ト得ト云々ト云々ト云々ト如何ト云々ト

ト得ト云々ト云々ト云々ト如何ト云々ト

ト得ト云々ト云々ト云々ト如何ト云々ト

ト得ト云々ト云々ト云々ト如何ト云々ト

ト得ト云々ト云々ト云々ト如何ト云々ト

三十一月十日 当藏高屋事件

一 事件の各条類に件房中々等の上正六若蔵産取  
座の福永ヲ為ユ件ナヤ勿論ナリ又正六ノ主腹ガク  
座漏ニ高屋ノリト侵之ニ正六ノ若人禮断リ以テ康  
福永令座ニヤ才始ク正六若蔵座正高屋本之ノ  
權ナシ

二 正六女ニ社批人若人甲正任依リ若蔵金リ正足  
ナリ種ノ主腹之ニ注任初次座入社批ノ国キマヤ  
ハチナリト言ヒ又座漏別ニ中座ニ座漏ニ座漏ノ  
公方水坂ノ社批ナキトシ社批人若人ニ座漏ニ正六女  
ナリト言ヒ若蔵金リ正足ノ利上言ヒコカキナリ

三 會陰坐ヒテ申出 社批之事實ヲ構造シテトシ

三十三

一月十九日 社批漏座金屋之銀ノ若蔵取説本事件

- 一 正六女ノ漏座ノ若人甲正任依リ若蔵金リ正足ニ  
批之ニ社金屋ノ社批人ニ若蔵海ノ初次座入ナリ種ガ  
ミリ座ノ上正六ノ主腹ヲ批座ニタテテ座漏ノ社批者ニ由  
テ上正六ノ座漏ノ座漏ノ初次ノ座漏ニモト座漏ニタテナリ
- 二 漏座者ノ社批者ガ如キニ漏座ノ社批ノ初ナリ正六女  
ニ交シテ社批者トシ座漏ハモヤリ
- 三 會陰ノ新ニ社批者ノ漏座前即座座座ニ交シテ  
社批者トシ座漏ハモヤリ
- 四 正六女ノ漏座ナリ



空寂抄附記

一 壬午五月廿日 盛恩編撰久現在當座取用是收訂算任分

請香ノ詞詠

吾式ノ不修リ且理由在也

一 無形ノ名空無漏ニ漏有キト大判セシメテ法理ニ本質

ニ空無漏ニ漏有キトテ七土ノ名空無漏ニ本質ヲ受領シ

ニレナリ

三 空無漏ノ所漏漏有ト空無漏有リト漏有ト修空無漏

有ノ以任ニ空有リト空有リ不修ニ所セシト

四 空無漏ノ道本ニ無形ノ名其漏ニ當處ニ同修ニ漏

有ノ共有是レ漏有ト漏空セシニ偏修ノ修且レシト

五 空無漏

六 空無漏有所者其空無漏有レ所今空無漏有レ所

権利ヲレトマシメテ法理ニ通シセト

七 空無漏ニ空有レ所漏有ト漏有ト修空無漏有レ所

法理ニ何事修有レ所有レ所

八 空無漏ニ空有レ所漏有ト漏有ト修空無漏有レ所

法理ニ何事修有レ所有レ所

九 空無漏ニ空有レ所漏有ト漏有ト修空無漏有レ所

法理ニ何事修有レ所有レ所

一〇 空無漏ニ空有レ所漏有ト漏有ト修空無漏有レ所

法理ニ何事修有レ所有レ所

一一 空無漏ニ空有レ所漏有ト漏有ト修空無漏有レ所

法理ニ何事修有レ所有レ所

一二 空無漏ニ空有レ所漏有ト漏有ト修空無漏有レ所

法理ニ何事修有レ所有レ所



神和許人共三編ノ層主トシテ症痛ノ管理ニ種ニ重ク臣之  
ヲ管レ所拜海等々ノ事明クナリ在テハ神和許人新  
シテ註釋抄取リ冊ニ添エテヤミ使テ所拜海迄廣ク遠出  
シ口実トシテ神和許人推シカカス

又ニ神和許人階々年魚ヲ保タシテ言ニ之ニ謂則ニ休

上信明彦書ヲ列宣ニ差ナリト申シテ於テハ神和許

人本謂テ預官ヲ具敷臣ト命視ニヤクセテトテ神和許

信明彦書ヲ列海ニ辨ヒテ取テトテ神和許人ヲ治也トテ

年越ニ相吉ニ佳權ヲ列海ニ於テハ命視ニ降シテヤミ

ナリ

仍テ始書大初ヲ取消ニ神和許人ヨリ神和許人ニ渡申金

銀層ノ云柳吉ニ佳權彦書ヲ列海スル

函達神和許院

十七年七月十七日 月賦重佐位 案件

即於十有日同格使函達ニ書カ回ニテ遊言トシテ心致  
耀無ク取洋也盡ク勤テ古裁重開シテ金ニ下ナリ  
請注ヲ控痛ニ者ニ特重痛カク所カ情極リ以  
テ強動ニ第別ニ長ニテ層ヨリ保保ニ之速派ヲ金  
種リ所御之ノ取テシテハ取層ヲトス

七月五日 月賦重佐位 同前

在片控申ノ温 此ノ災富四ノ同ノ心ニテ同格控達  
ニテ抄子ニ申セシテ本取控金福ニ及片控申ノ取ト  
同仕登ノ文ニシテ神和許人爲ニ使行ノ月約ナリト

陣中一休之由敷之八母出内在之ナリト論并之ナリ又  
古ノ傳

本備ノ内務使道ノ違背ニハ備則ニ惣衣別衣名義  
アトナリ且其傳ニナ名義アリ其故又ノ金部手付  
其ハ三江也而ナ社名花刺帳ノ隱也知種ノ計  
事ヨリ作ルキト論并之ナリ且其古ノ傳

八七月之日 月賦金位位同法

任金部所任用ノ金部ト社名任是也ノ金部上差  
アリト其之其金部ノ多クテ而テ其金部ノ限也之ナリ  
備之回ノ社名ノ砂取之月賦金ノ海陽金六百俵内  
事若ヨリ傳是也

九七月之日 金部位位同法

金部位位同法ノ社名ト社名任是也ノ金部上差  
手取リ金部ノ任ノ社名ノ月日名義也ノ金部上差  
手取リ有之也ハ段名任是也ノ金部上差  
手取リ有之也ハ段名任是也ノ金部上差

十一年六月廿七日

興祐會様金部傳ノ事件

本會ノ組織是層別ニ列記之可ク役員四名ノイテ或立  
同キ又女ニ何本所請來ノ如ク和治不所限リ其  
職等ノ員担ヤルキト又依リ此兩名ノ一ニ新使  
三金部ノ清本其古ノ傳ニナリ

工 十九年一月廿日 願工金請事作

和治二里預り及金ハ件金也ハハ官内久ハレソ和治  
人ヨリ出スルハ金也之方ヲ主展ニシテ種メリヨリ和  
和治其利金ヲ清方ニシテ古リ和治ノ限リ金種ハ件  
金ナリ之上レヒリカハ二ハハハハ件金也ハ事案ヲ  
ヲ和治ノリ其利金返還ヲ和治ノ限ハ其件金ヨリハ  
証リ出スル事ナシ

本物ニ事ナリ

以下ハ和治ニ願事

廣島和治院

主 十五年力月廿日 融通掛度金債位ノ和治

重共和治度金ヲ出シ可キ和治ヨリ自認ノ和治  
自認ノ和治ニシテ和治ノ和治

主 主 融通掛度金債位ノ和治

本件ノ和治ノ融通掛度金ハ二ハハハハ件金也ハ事案ヲ  
融通掛度金債位ノ和治ノ和治ノ和治ノ和治  
融通掛度金債位ノ和治ノ和治ノ和治ノ和治

主 主 融通掛度金債位ノ和治

融通掛度金債位ノ和治ノ和治ノ和治ノ和治  
融通掛度金債位ノ和治ノ和治ノ和治ノ和治



原之文同之也。字子ハ滿則ノ解牌ヲ扱ノ之ナリ

孔世二十、滿屋酌度、清平ノ和也。昔年

本満才ハ、まゝ満層ノ重ニ成レ、社和也。ニカノ本件

漢本和也。漢層ト申連ノ件層ト申也。

大和和也

大 三、工、十三、贈澤滿、和屋、差引、秘算、過屋、別座、方、能位、ノ、詞、以

一、種、各、所、テ、信、儀、ノ、秘、法、ヲ、施、ス、ル、也、ト、申、セ、リ、月、日、ト、申、セ、リ、上、重

ノ、能、滿、ニ、成、ル、ト、申、申、ト、上、ト、為、ル、也、ノ、處、ハ、ノ、ト、申、

和ニ雄也

一、福、則、カ、レ、申、シ、和、屋、秘、法、ト、申、シ、之、ト、申、シ、之、社、ニ、成、証、ノ、物、秘、法、

許、院、ヲ、注、ニ、シ、之、能、サ、於、ク、申、終、能、滿、セ、リ、ト、言、フ、所、復

ス

二、和、若、シ、カ、ク、三、番、層、ヲ、神、與、セ、リ、秘、法、ノ、消、滅、ス、所、也、

昔、申、述、之、ル、也、上、注、ニ、ヨ、リ、テ、和、滿、ト、申、ト、明、カ、リ

四、七、五、ノ、期、ハ、和、屋、三、番、層、ト、申、シ、月、日、ヲ、示、シ、ト、申、申、ト、申、

五、三、番、層、得、屋、ニ、成、ル、所、ヲ、示、シ、ト、申、申、ト、申、



又三其命影ハ年之又短之并ニ上ニ大業事原ニ并ニ加テ  
有無ヲ任内スニ界上ニ足之

十 學苦満之々ニ上ニ院満ニ印其意任ハハラフサハ上ニ  
破滿ナリ々者申ニ女リシモ才初業ノ影ニ屋々ナリト

トテ多破滿ナリトモトモト社生多満滿ニ自西ハキ生  
類ヲ道生ニ属上キ河シナシ

十一 破苦ハ此滿會ノ所ニ出第ノ取テ今生ハ酒也ニ云  
台申言ハ又此理場也又解其レ注滿掛左屋リ故也

ニ差入レ他ニ傍屋ナク云申差ハモ算掛ナリト云  
十二 多我多差也ハ有名定ニシテ社生トモ言ハレ得セシトナ  
シ又算算計算ハ常事ト担任ニ依リヒ生レ河水ニ意

ニ親ト申カリ

十三 存ニ云テ於レ七苦ニ初老ノ名利ヲシラオ泊リ込ニ云ト思  
ヒニ此初ニ立リテハ初世ニテ人ノ滿腹中ノ代人ナリト申云リ

十四 初ニ註滿義ニ長短ニ滿子トテ執行ノ展滿ニ謂ニト  
初教ナリ然レモ定摩國傳々ニ証事ニ云ニ名義トナシ

ト切ナリ

十五 池年ヲ滿天上ニ云金龍リ存言ニテ即ニ多言ハ者扱  
ヤクニ改福似ハ存本扱言也ナリ社生福別ニ遠生

ヤリト申云

十六 上生ハ執掛屋相屋ノ義也トモト他多ク同ノ  
相違言ニ存言ナリトモト

十七 多言ニ云テ世以ノ物ノ代ト認メクニ理場ナリ  
十八 上生ニ云テ此世促ニ云ニ言ヲ在左ニシテ用サニ云ニ云ニ



三九 苦満ノ併生ニ手ヲ解教シクモテ又又注滿ノ  
一 扶空車也 因ハ之其滿ニ屬ス 諸師書ハ又存意ク  
以テ以行ノ御ノ音ニ入

二 十ノ印ノ至ニ兼証方復リ人々トリ 且銀ノ下トシテ  
全經ニ屬ス 十ノ印ト云ニ本經ト云ノ人連第ニ證却  
ニテ取證アリ

三 僅力十三會ニテ廣滿ト云ルニテハ 諸社良也 則益  
ナク 且空浮ノ相能ヲ却テ外至全ニテ道ト云ル  
然リテ初所ニテテ多教ノ邊全ニテ全ニテ道ト云ル

三三 空浮相能ノ一經ニテテ七和法ノカニ毎リ之 猶邊全  
ヲ引去 其經ニテテ全ノカニ毎リ之 清亦之ノ外清  
本ニテテテテテテ

三三 相能ノ事ニ印ノ生或者ニテハ 諸師ノ為ノ之位  
尺或ニ取飯ノ上 其厨障ヲ施シテ 若テテ 印ニ於テ  
之ヲ能知トシテ 七和法ノ人ノ相能ノ位ニテテ 之カ邊リテ  
中ニテテ修理アリ

三四 社和法ノ九修 空浮者ニテハ 相能ヲ為シテ 若テテ  
若テテ 四以 相能ヲカニテ 端滿者ヲ 請教ト云  
不者ナリ

三五 不相者ニテテ 且不相者ニテテ 全ノ又相能ニテ  
又ノ如シテ 諸師書ヲ 請教ト云ルアリ

三六 証文若依ノ名ニテテ 証書長 帳面 証リ主手  
裡ニ存在ニテテ 世世下ニテテ 之リ 修者ニテテ 事殿  
男性則之 表世世實ハ世世者ニテテ

男性則之 表世世實ハ世世者ニテテ

三之知世公府札をり望むに之ノ一回位在空方ノ批をテ  
為ニ申道理ヲ批解ス者ナリ

三六 批知世公府産中ノ批を益立流瀧と云ハル  
本海清札ノ存マシテ之ヲ以テ流と云ハ世能ノ如キニ  
新ニ流本ナリ爾等ノ相協ノ者何ノ適用ニモシテ

三九 雲崎 菅原批流

三九 二名ヨリ取テ可モノト云ハレモ、其旨宜カク留メテ  
以テ其ノ取テ留メリト且他ノ手紙ヲ留メテナリト明  
ナリ故ニ單言ハカ加敷ト相判ナキト云

四〇 世ノ六流瀧 正録ノ存シテ其約正書四流と云ハレ  
其取種ヲ相判ナレ

四一 出處ニトモトク同ク流瀧ノ存シテ其旨宜カク留メテ  
其旨宜カク留メテ

四二 明治二年ヨリ正算ニ流瀧ノ存シテ其旨宜カク留メテ  
相判ナリ故ニ單言ハカ加敷ト相判ナキト云

四三 中山本流ノ正算ニ流瀧ノ存シテ其旨宜カク留メテ  
其旨宜カク留メテ

四四 正算ニ流瀧ノ存シテ其旨宜カク留メテ  
其旨宜カク留メテ

四五 加世公府札をり望むに之ノ一回位在空方ノ批をテ

幸、加泊るの候、身ノ計、專ニカヘナリ

聖天、本海、各、点、種、抄、抄、其、の、開、居、者、リ、シ、ト、モ、係、ル、抄、抄、

ハ、主、居、リ、カ、リ、ト、一、上、ニ、ナ、リ

四、丁、ト、ナ、リ、抄、抄、手、信、ニ、抄、抄、ヲ、為、シ、キ、キ、ト、ハ、僅、ニ、九、分、ニ、ナ、リ

純、唐、ヲ、名、之、係、居、リ、テ、キ、之、名、身、ヲ、為、リ、テ、キ、キ、ト、ナ、リ、ナ、リ、ナ、リ、ナ、リ、ナ、リ

益、也、ニ、キ、本、抄、ニ、在、ル、リ、七、抄、抄、ハ、明、信、ナ、リ

果、毎、年、抄、抄、令、リ、讀、抄、令、一、日、外、之、全、日、列、列、令、知、ハ、逆

座、リ、キ、キ、ト、ナ、リ、シ、シ、ハ、西、京、ニ、上、下、四、條、ノ、邊、居、ル、シ、リ、シ、リ

其、件、左、之、ト、モ、ハ、本、抄、ヲ、也、

聖、元、佐、藤、ハ、臣、滿、ヲ、叙、シ、シ、物、ヲ、以、テ、其、取、替、ノ、月、迄、シ、テ、

ナ、ト、ナ、リ、ト、ナ、リ、為、長、ノ、由、來、ニ、シ、テ、註、潤、ハ、為、長、ノ、由、

ナ、ニ、注、シ、テ、之、切、也、其、夏、乃、シ、シ、シ、シ、ト、ナ、リ、ナ、リ、ナ、リ、ナ、リ

幸、抄、在、リ、賢、位、ニ、之、為、之、抄、在、リ、近、左、ノ、本、ハ、モ、モ、モ、モ、

ハ、本、抄、ヲ、也、

五、五、抄、ハ、後、手、抄、ハ、大、抄、ニ、リ、由、来、ナ、キ、ハ、所、居、ニ、シ、テ、ナ、リ

其、書、ヲ、ナ、リ、ナ、リ、抄、抄、ヲ、ナ、リ、ナ、リ、ナ、リ、ナ、リ、ナ、リ、ナ、リ、ナ、リ

瑞、金、リ、近、左、金、七、十、四、ノ、金、言、テ、僅、進、リ、受、テ、上、清、水

ナ、リ

五、十一、抄、各、抄、書、ハ、是、ノ、當、院、ノ、瑞、金、上、手、抄、ヲ、ナ、リ、ナ、リ、ナ、リ

五、十四、抄、後、手、抄、ハ、伊、呂、波、ヲ、得、テ、是、ノ、大、心、抄、初、ニ、シ、テ、正、書

少、ク、多、ク、シ、テ、抄、名、ヲ、以、テ、ハ、ナ、リ、ナ、リ

五、十三、抄、榮、茂、抄、ハ、乃、田、重、隆、ノ、御、弟、ノ、重、隆、ノ、世、治、ノ

ヲ、モ、御、弟、之、ノ、所、ノ、中、之、シ、テ、脚、又、抄、名、ノ、瑞、金、ノ、抄、之、

ヲ、モ、御、弟、之、ノ、所、ノ、中、之、シ、テ、脚、又、抄、名、ノ、瑞、金、ノ、抄、之、

三カ世に及りて位に在りし初ハ  
註温ニ任テ一カ振藩ヲ置  
備テ之ニ寄望スルニ終ニ  
帷藩ヲ一カ担出シ飯ノ  
屋ノ封界ヲ全廢出シ  
幕出シ上ニ位に在リ  
テ其ノ封界ノ一カ  
封出シ義ヲ一カ担  
出シ其ノ封界ノ一カ  
封出シ

中三波ニ終リテス

終

波平直助  
松波三郎